



2007年 7月 1日掲載

## 親子三代上州紀行 / 榛名富士編

「ふくちゃんの“つれづれWEB”」も、本日で10周年。そんな記念すべき今月は「親子三代上州紀行」と題し、その名の通り親子三代で行った1泊2日の家族旅行の様をお届けしよう。

今回の旅行も、我が親におんぶにだっこ。すべての費用は親持ちである。

便乗は楽チンなのだが、毎回「申し訳ない」と恐縮してしまう。まあ、親は「孫と遊びたい」、こちら「旅行したい」と、お互いの利害が一致しているわけではあるが。

土曜の朝5:30、我が親は自宅に到着。我々家族を拾い、練馬ICから関越道に乗る。

今回も、ETCの深夜早朝割引をフル活用。6:00までに高速に乗り、100kmまでなら高速料金が半額になるのだ。

急ぐ旅ではないので、1時間ほどかけて前橋ICで降りる。時間も時間なので、前橋市内のファミレスで朝食を取ることにした。

腹ごしらえも終わり、榛名山に向け出発。どんどん標高も上がってきて、関東平野も一望できるようになってきた。

それにしても、梅雨入りしたにもかかわらず、天気もよい。数日前には雨の予報が出ていたので、天気に恵まれ一安心である。

30分ほどで伊香保温泉に到着するが、今回は素通り。目的地の榛名山まで、もうすぐなのだ。

そうこうしているうち、目の前に榛名湖が出現。榛名山に到着した。

榛名湖には各種のボートがあり、一方陸では乗馬体験や自転車のレンタル、ロープウェイなどがある。我が子に「お馬さんに乗る？」と聞くと、「やだ」との返事。馬を怖がっていたわけではないが、その気がなかったようだ。

榛名山ロープウェイに乗って榛名富士に登ろうとしたが、時間が早かったようでまだ営業前。営業開始は9:15なので、時間はまだ30分もある。

我が息子は馬に乗りたがらないので、4輪自転車に乗ることに。30分間、我が息子と2人で

湖畔を“ドライブ”してみた。

標高が高いこともあって、自転車をこいで走るときの風が気持ちいい。高原ゆえ、さわやかなのだ。

しばしのサイクリングも終わり、ロープウェイに乗る。榛名山ロープウェイは、2両連結のゴンドラなのだ。



山頂に着くと、何と富士山が見えるではないか！ 雪を頂いた富士山が、ほんの少し顔を出しているのだ。

デジカメで撮影を試みる。しかしながら、富士山が小さすぎてよく映らなかった。

さて、榛名富士の頂上には、榛名富士山神社が鎮座。最近「ナムナム」好きの我が息子も参拝する。

参拝も終え、ロープウェイで下山。次の目的地、尻焼温泉に向かう。

途中、国道145号線で「関東の耶馬溪」とも称される吾妻渓谷を通る。ここで、橋脚の長い橋があちこちで建設中であることに気づいた。

この一帯ではハツ場（やんば）ダムを建造中で、それに伴う付け替え道路の橋だという。川原湯温泉も湖底に沈むのだが、新たな温泉街を造成中とのことらしい。

国道292、406号線と入り、尻焼温泉に到着。以後は[次回](#)に続く。

[\[トップページ\]](#)

2007年 7月 8日掲載

## 親子三代上州紀行 / 草津編

今月の「ふくちゃんの“つれづれWEB”」は「親子三代上州紀行」と題してお送りしているが、今回はその2回目。前は[こちら](#)からどうぞ。

尻焼温泉に着き、早速入浴へ。尻焼温泉は川をせき止めた温泉で、尻が焼けるほど川底が熱いところから名付けられた。

温泉宿もあるが、まずは川をせき止めた温泉に入る。しかし、どうにもぬるい。

前日までの雨で川の水が冷たくなってしまい、温泉というよりは温水プールといった様相。温かいところがピンポイントでしかないのだ。



さすがにこれでは温まることができなので、すぐそばの無料公共浴場へ。何とこの浴場、混浴なのだ！

「着衣での入浴は禁止」なので、当然すっぽんぽん。さすがに、我々が訪れたときには女性はいなかった。

でも、公共浴場だけあって、温度は普通の温泉。温泉で冷えた体を温泉で温めるという、妙な状況となってしまった。

尻焼温泉をあとにし、草津へ。ちょうど昼時なので、湯畑が望める喫茶店でスパゲティを食す。

腹を満たし、西(さい)の河原の露天風呂へ向かう。ここは、2002年5月掲載の「[上州温泉紀行](#)」(PDFファイル)でも訪れている。

5年ぶりに西の河原の露天風呂に入って、ある異変に気づいた。露天風呂の一部に、屋根が設置されたのである。

ここでハプニング発生！ 何と、我が息子が

温泉でおぼれてしまったのだ。

お風呂を歩いていたら、滑っておぼれたのである。これ以降、我が息子は温泉につかるのを嫌がってしまった。

西の河原をあとにし、進路を西へ。国道292号線で、草津白根山に向かう。

途中、ところどころで残雪を発見。さすがは2000m級の高原地帯である。

草津白根山に到着し、湯釜を見学。駐車場から湯釜まで10分ほどの山道だが、沿道に避難所と火山観測所があり、活火山であることを如実に物語る。

湯釜に着いた。青白い、まるでソーダアイスのような湖面が眼下に広がっている。



日によって、水量や色が変わるといふ。まさに自然の神秘である。

16:00も過ぎると、高原はひんやりしてくる。Tシャツ1枚ではさすがに肌寒く感じるのだ。

白根火山ロープウェイで下山しようと思ったのだが、駐車場から乗り場までのバスがすでに終わってしまった。ロープウェイはあきらめ、車で下山する。

17:00に、草津の宿に到着。今回の宿は、某官庁の保養施設である。

官庁系の保養所だけあって、一時期話題になった温泉の偽装とは無関係の、源泉掛け流し。ただし、源泉そのままでは90℃以上で熱いので、加水してあるようだ。

温泉に入り、夕食をいただき、一杯やって、寝る。翌日の模様は、[こちら](#)をご覧ください。

[\[トップページ\]](#)



2007年 7月15日掲載

## 親子三代上州紀行 / 鬼押出し園編

今月お送りしている「親子三代上州紀行」も、今回は3回目。[1回目](#)、[2回目](#)はそれぞれをご覧ください。

日曜日、朝5:00に目覚め、早速朝風呂へ行く。源泉掛け流しの温泉なのがいいが、人が入っていないと風呂が熱くなってしまおう。

一方で、洗い場のシャワーは、使っていないと温度が下がって水のようにになってしまう。ちょっとちぐはぐである。

朝食を取り、9:00に宿を出発。草津運動公園の道の駅で、おみやげを調達する。

この日は午後から雨の予報で、道の駅の脇にある温度計は18。「高原は避暑地」ということをすっかり忘れて、Tシャツしか持ってこなかったことに少し後悔する。

草津道路、国道144号線、鬼押ハイウェイを通り、鬼押出し園に到着。我が子はお昼寝で起こされ、ちょっと不機嫌のようだ。

鬼押出し園に着いても、ちっとも歩こうとしない。すぐ「抱っこ、抱っこ」と甘えてくる。

それでも、鬼押出し園にある観音堂では機嫌を直す。「ナムナム」ができる上、鐘もつけるからだ。

ところで、鬼押出し園から見える浅間山は、少しもやがかかっていた。携帯でチェックすると、雨はすぐ近くまで来ているようだ。



そういえば、浅間山も立派な活火山。鬼押出し園にも、まさかのための避難所がいくつ

か設けられている。

しかしながら、前日訪れた草津白根山のそれより狭く、簡単な作りのように見える。果たして、これで火山弾が防げるのかと心配してしま

うが、素人考えの杞憂だと信じよう。

さて、鐘楼でもナムナムし、観音堂でもナムナムした我が息子は、じいじの「ガチャガチャあるかな？」の一言で自ら歩き始めた。現金なヤツだ。

駐車場への道すがら、顔に水滴を確認。ついに雨が降ってきたようだ。

鬼押し出し園でも、入場者用の貸し出し傘の準備が行われていた。絶妙のタイミングである。

鬼押し出し園を離れ、横川へ向かう。横川では釜飯を食すのだ。

群馬県から長野県に入ると、雨が本降りになってきた。こちらも、絶妙のタイミングで雨から逃れることができたのである。

国道146号線を通り、中軽井沢で国道18号線に出て横川へ。しかも、碓氷バイパスではなく、国道18号線の旧道、碓氷峠のワインディングを駆け下りるのだ。

旧道は184のカーブがあり、道端には標識が立っている。軽井沢からなら、184からカウントダウンしていくのである。

途中、廃線となった信越本線の線路、通称「横軽」が木々の間から見える。廃止から10年がたとうとしているが、今でも遺構を訪れる人が多い。

レンガ造りが美しい眼鏡橋のそばには駐車場も設けられているが、雨にもかかわらず満車。観光資源としての注目度が、容易に想像できるだろう。

碓氷峠のカーブ「1」を過ぎ、横川に到着。ここで、釜飯のドライブインに入ろうとした。

しかし、しかしである。肝心のドライブインが、改装のため7月20日まで閉鎖されているのだ。

では、釜飯はどうになってしまうのか？ ドライブイン向かい側の第2駐車場に臨時の売店が置かれ、ここで釜飯を売っているのである。

売店なので、おみやげ専用。仕方なく、駐車場に車を止め、車内で釜飯を食べることにした。

それにしても、久々の釜飯はうまい、うまい、うま～い！ この界限に来たら、どうしても釜飯を食わずにはいられなくなる。

ところで、我が息子は熟睡中。結局、釜飯はありつけないまま、次の目的地である群馬サファリパークへ向かうこととなった。

[\[トップページ\]](#)

この続きは[こちら](#)からどうぞ。



2007年7月22日掲載

## 親子三代上州紀行 / サファリパーク編

「ふくちゃんの“つれづれWEB”」が今月お送りしている「親子三代上州紀行」も、いよいよ最終回。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)はそれぞれからどうぞ。

横川から30分ほどで、群馬サファリパークに到着。あいにくの雨だが、意外にも入園者が多い。

入園方法は、以下の5つがある。

1. エサやり体験バス
2. サファリバス
3. レインジャーツアー
4. マイカー
5. レンタカー

今回は、マイカーを選択。ちなみに、入園料のほかに、上記の入園方法に応じて別料金が発生する。

ゲートを入り、動物が見れるサファリゾーンへ。入園時に借りたラジオが、今いる場所の動物を的確にガイドする。

ここで、再びお昼寝中の我が息子を起こしにかかる。やはり寝起きでご機嫌斜めだが、間近に見る動物で元気になってきたようだ。

動物が暮らしているところに車が入っていくので、当然ながら動物は我が物顔で車道を通る。もちろん、車道で立ち止まったりすることもよくある。

さすがに、長時間立ち止まると後ろがつかえてしまうので、サファリパークの車両が動物に近づき、どかしにかかる。また、バスも動物の群れに絶妙なハンドリングで突っ込んでいくのだ。

さて、サファリゾーンは7つにゾーンわけされており、基本的に車の中からは見ることができない。しかし、1か所だけ「ウォーキングサファリゾーン」と名付けられたところがあり、ここは徒歩で見ることができる。

動物に餌をやれたりできるが、今回はパス。雨なので、あきらめざるを得なかった。

サファリゾーンを1周し、アミューズメントゾーンへ。遊園地やレストラン、売店やゲームセンターがある。

我が息子の昼食はまだだったので、彼だけご飯。ワニのフライとダチョウの串焼きの盛り合わせを注文した。

試しに1口だけいただいてみたが、癖は多少あるものの、食べなくはないという印象。我が息子は、「うま~い」を連発しながらワニとダチョウを食べていた。

食事も終わり、遊園地へ。ゲーセンといい、遊園地といい、何とも懐かしい昭和テイストを醸し出している。

雨も小やみになり、我が親子3人で観覧車に乗り込むことに。ゴンドラがオープンタイプで中に雨が吹き込んでしまうため、係員が座席を拭いて客を乗せていた。

我が息子は、係員のおじさんに切符を渡し、私と嫁さんに「お兄さんに切符渡した」と報告。おじさんなのに、なぜかお兄さんなのだ。

観覧車からは、サファリパーク全体を始め、隣接するゴルフ場も一望できる。雨なのに、コースを回っている人も見えた。

それこそ、天気がよければ遠くまでよく見えるはずだが、いかんせん雨である。天気を恨むしかないか。

観覧車を降り、いよいよ帰宅の途に。群馬サファリパークをあとにする。

上信越道富岡ICから関越道へ。多少の渋滞はあったものの、1時間半ほどで練馬ICに到着した。

我が家の近所のファミレスで夕食をし、自宅に到着。これにて、「親子三代上州紀行」は無事終了した。

「今度は親子3人水入らずで旅行したい」と嫁さん。いつ、どこへ行こうか？

[\[トップページ\]](#)